

# 津ライスニュース 平成30年産第1報

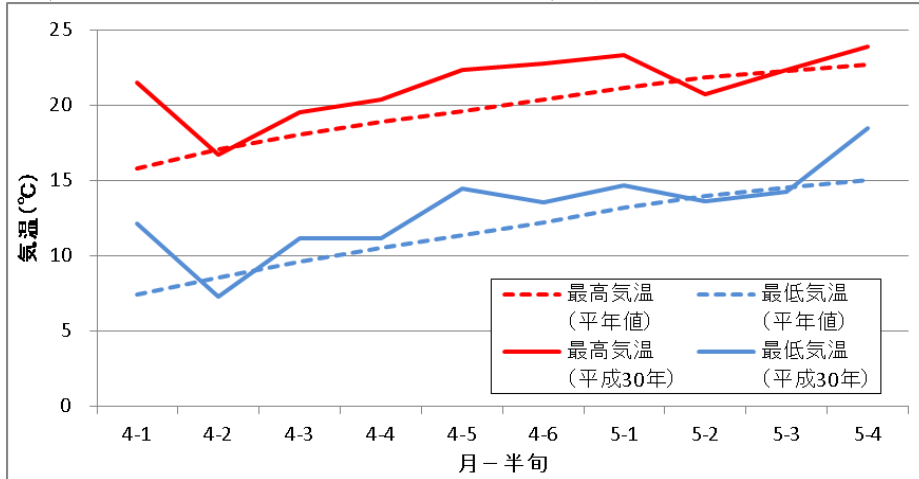
平成30年5月23日

津地域農業改良普及センター 電話:059-223-5103

## 気象経過

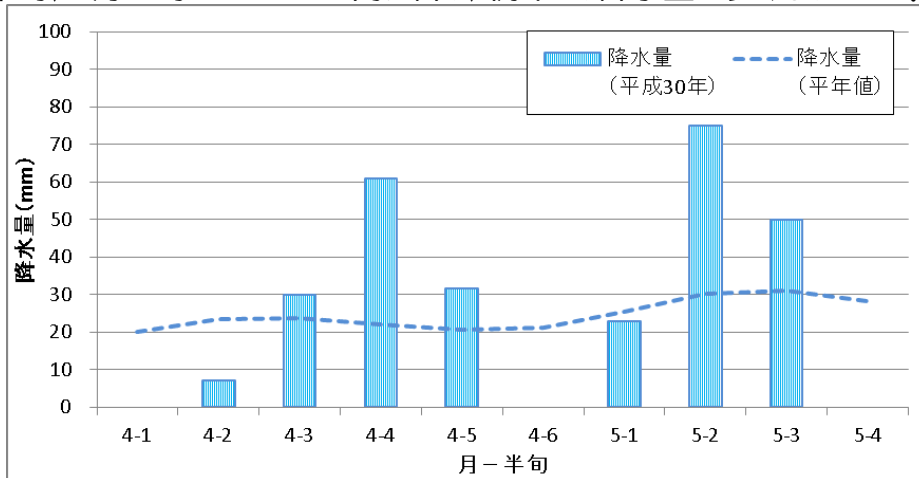
### <気温>

4月上旬、5月上旬で低温に見舞われましたが、気温は高めに推移しています。



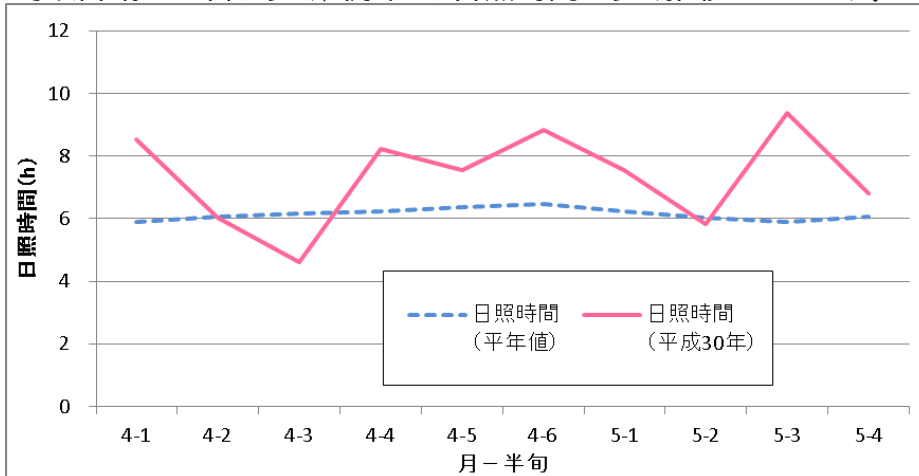
### <降水量>

4月中旬、5月上旬にまとまった雨が降り、例年より降水量は多くなりました。



### <日照時間>

4月中旬以降晴れた日が多く、例年より日照時間は多く推移しています。



## 生育の概況

本年は育苗期間中の寒暖差が大きく、一部でムレ苗やヤケ等の症状、生育ムラが散見されました。管内での移植は例年よりやや早い4月10日ごろから始まりました。

強風によって葉先にダメージを受けている稲が一部で確認されましたが、気温の上昇・日照時間の充実によって回復しています。生育は概ね順調で、田植えの早いほ場では、葉色が濃くなり分けつも出始めています。

## 病害虫の発生状況と対策

### <いもち病>

いもち病発生の適温(25~28℃)となる時期を迎えています。現時点では本田での発生は確認されていませんが、今後、雨の日が続き、高温多湿で感染に好適な条件が揃うと、本田でのいもち病発生が懸念されます。感染源を減らすこと、早期発見が大切です。

- ・補植用の苗は早めにほ場外へ取り除きましょう。
- ・いもち病の初発の早期発見と適期防除に努めましょう。

### <害虫(イネミズゾウムシ、イネゾウムシ、イネドロオイムシ、イネクロカメムシ)>

本年は、4月以降の高温の影響によりイネミズゾウムシの発生がやや早く、発生量も少々目立つところも散見されます。山沿いや常発地では今後、害虫の発生増加も予想されますので注意してください。

## 今後の栽培管理

### <中干し>

中干し開始は移植後35日前後頃で、葉色が濃く茎数が確保できたほ場(コシヒカリで400本/m<sup>2</sup>、20本/株程度となった頃)から行います。

中干しは土壌中に空気を入れることによって、根を健全にする効果や、無効分けつの過剰発生を抑制し有効茎歩合を高める効果が期待できます。平成29年産米では、栄養成長期間の好天によって、生育が旺盛になり、茎数が増加し籾数が増えたことに加え、生殖成長期間の曇天による籾の充実不足が重なり、白未熟粒が多発したと推察されます。適切な中干しの励行によって稲の生育を最適に保ちましょう。

6月に入ったら、ほとんどのほ場で中干し作業が行えると思われませんが、中干しの開始時期と強弱については、水稻の生育状況(=茎数の状況)に合わせて実施してください。梅雨入り前に一度軽く干しておくとともに、排水が悪いところでは溝切りを実施しておくとう水管理が楽になります。

**\*茎数が多い場合** 中干しを早い目に、やや強く行います。

ただし、田面が大きくひび割れるような中干しは、根を切断し生育を強く抑制しますので避けてください。

**\*茎数が少ない場合** 中干しを遅い目に、弱く行います。

### <除草>

本年の生育は全体として順調と思われませんが、4月中旬や5月上旬の降雨などで、除草剤の効果不足によってヒエや広葉雑草の発生がある圃場では、早めに後期剤を散布しましょう(但し、成分回数や使用時期=特に収穫前日数に注意してください)。